

「恋人の聖地」八島ヶ原湿原 小説に 新潮社 月刊誌12月号に掲載

下 諏 訪



「恋人の聖地」として小説の舞台に選ばれた八島ヶ原湿原。上空からハート形に見えるのが特徴の一つ

出版社の新潮社(東京都)は、諏訪郡下諏訪町の八島ヶ原湿原など、静岡市のNPO法人地域活性化支援センターが認定する全国の「恋人の聖地」を舞台にした恋愛小説を月刊誌「小説新潮」12月号に掲載する。全国から7カ所を選び、それぞれ別の作家が小説化を担当。同町が27日の町議会全員協議会で、同湿原が選ばれたことを報告した。

同NPO法人によると、ことし3～4月、小説化の企画に参加する聖地を公募。全国115カ所のうち約30カ所の地元自治体が希望し、これまでに下諏訪町の他に北海道帯

広市、千葉県富津市、名古屋市、広島県廿日市市の聖地が決まったという。

同町によると、八島ヶ原湿原を担当する作家は昨年、「ふがいない僕は空を見た」で第24回山本周五郎賞を受賞した窪美澄さん。町は窪さんの宿泊、交通費などを負担して取材に協力する。

霧ヶ峰にある同湿原はミスゴケの種類が世界的に豊富で、1939(昭和14)年に国が天然記念物に指定。青木悟町長は全協で「小説化されることで湿原の知名度を上げ、観光の活性化につなげたい」と述べた。